

出版流通と資料選択



松戸市立図書館

村上 さつき(日本図書館協会認定司書1089号)

1

自己紹介

東京生まれ・青森育ち

一般企業事務職

2004年1月～2006年3月 青森市民図書館(委託スタッフ)

2006年4月～2014年3月 中央区立月島図書館(非常勤)

2014年4月～2021年3月 大崎市図書館(正職員)

2021年4月～現在 松戸市立図書館(正職員)

講師等:現代の図書館の動向、出版流通と資料選択

図書館とまちづくりなど(新図書館関係)

はじめに

なぜ基礎講座で出版流通を学ぶのか

図書館で働くうえで、

- ・どのように読者のもとへ本が届けられているか
- ・出版界の状況を把握して、業務にあたることはとても大事なこと。

図書館員の倫理綱領

この倫理綱領は、「図書館の自由に関する宣言」によって示された図書館の社会的責任を自覚し、自らの職責を遂行していくための図書館員としての自律的規範である。

この綱領でいう図書館員とは、**図書館に働くすべての職員のことである**。綱領の各条項の具体化に当たっては、図書館長の理解とすぐれた指導力が不可欠である。

この綱領は、すべての図書館員が館種、**館内の地位、職種及び司書資格の有無にかかわらず、綱領を通して図書館の役割を理解し、綱領実現への努力に積極的に参加することを期待している**。さらに、図書館に働くボランティアや図書館同種施設に働く人びと、地域文庫にかかわる人びと等による理解をも望んでいる。

図書館員の倫理綱領 (文化創造への寄与)

第12 図書館員は、読者の立場に立って出版文化の発展に寄与するようつとめる。

出版の自由は、単に資料・情報の送り手の自由を意味するのではなく、より根本的に受け手の知る自由に根ざしている。この意味で**図書館は、読者の立場に立って、出版物の生産・流通の問題に積極的に対処する社会的役割と責任を持つ。**また図書館員は、「図書館の自由に関する宣言」の堅持が、出版・新聞放送等の分野における表現の自由を守る活動と深い関係を持つことを自覚し、常に読者の立場に立ってこれら関連分野との協力につとめるべきである。

出版流通

データ

全国の出版社数 2,907社(2020年)

(『出版物販売額の実態2022』より)

年間の新刊出版点数 69,052点(2021年)

全国の書店数 11,952店(2021年総店舗数)

8,806店(坪あり店舗数)

(「書店マスタ管理センター」より)

再販制度(再販売価格維持制度)

出版社が決めた販売価格＝定価を、販売会社や書店などの販売先に守ってもらう定価販売制度のこと。**出版物が文化・教養の普及の見地から、独占禁止法の適用除外**となっている。

【メリット】地域格差がなく、全国同じ価格
書店・出版社の倒産を防ぐ

【デメリット】競争原理が働かない

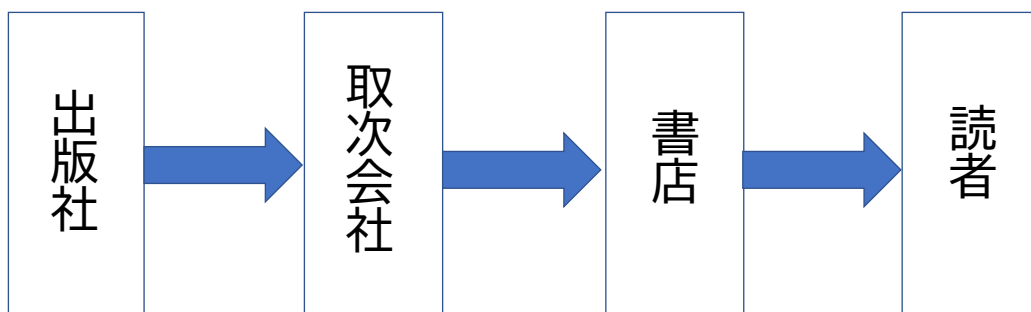
委託制度

出版社・取次・書店の3者での契約に基づき、定められた期間内であれば書店は売れ残ったものについて返品ができる制度

	出版社－取次会社	取次会社－書店
書籍(新刊)	6か月	3か月半 (105日)
雑誌(月刊誌)	3か月	2か月 (60日)
雑誌(週刊誌)	2か月	45日間

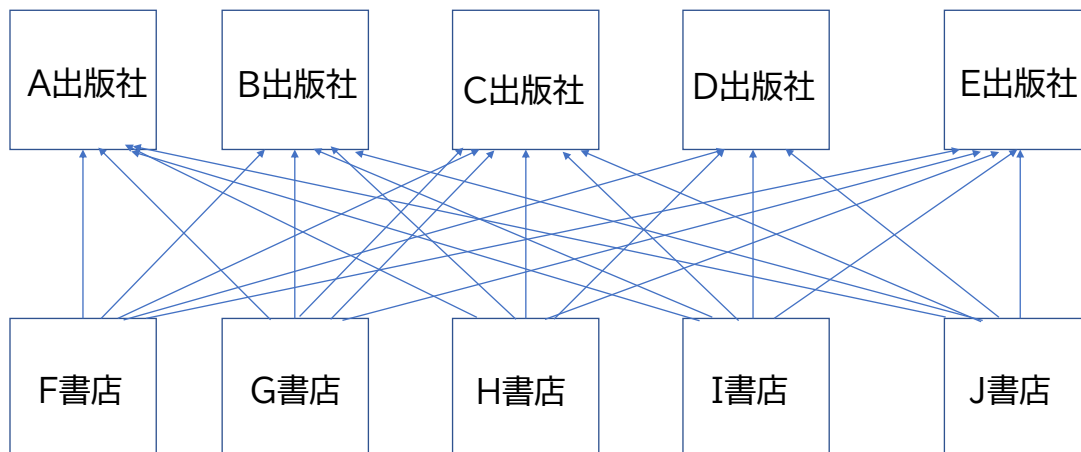
(『出版営業入門』より)

読者に本が届くまで

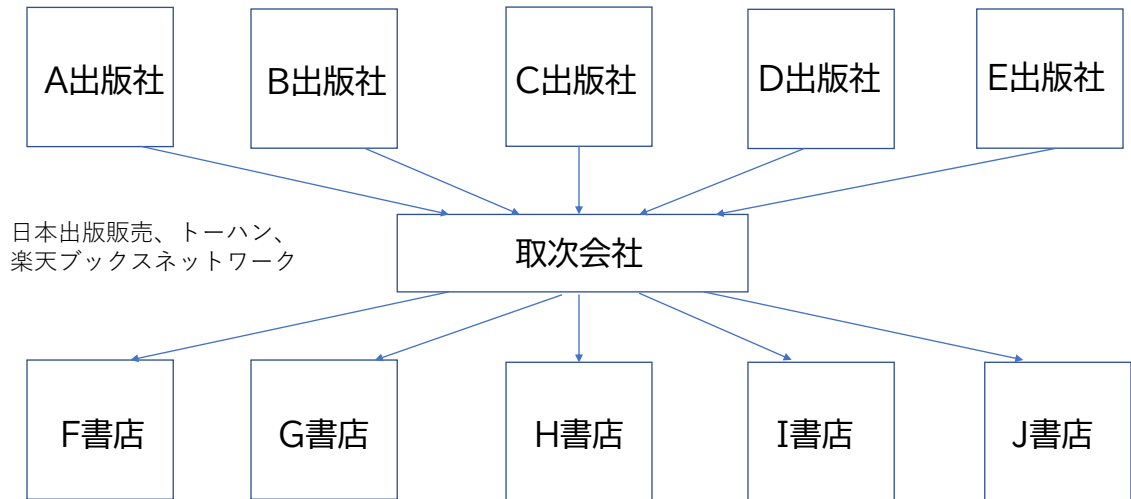


取次会社: 出版社と書店の間にある流通業者で、他産業では問屋にあたる。
(『出版社の日常用語集』より)

もし取次会社がなかったら…



取次会社があるから…



本の価格構成比

紙代	6%
製版代	12%
印刷・製本代	7%
編集費	3%
著者印税	10%
取次店マージン	8%
書店マージン	22%
出版社粗利益 (人件費・宣伝費 ・管理維持費等)	32%

(『出版営業入門』より)

出版点数と販売額

年	新刊点数(点)	推定販売金額(億円)	
		図書	雑誌
2002	73,909	9,490	13,616
2012	78,349	8,013	9,385
2013	77,910	7,851	8,972
2014	76,465	7,544	8,520
2015	76,445	7,419	7,801
2016	75,039	7,370	7,339
2017	73,057	7,152	6,548
2018	71,661	6,991	5,930
2019	71,903	6,723	5,637
2020	68,608	6,661	5,576
2021	69,052	6,804	5,276

(『出版指標年報2022』より)

出版物流ルート

- ① 取次・書店ルート(57.6%)
出版物流のメインルート。現在でも販売シェアが6割。
- ② 出版社直販ルート(12.3%)
 - ・出版社と書店が直接取引するルート(近年増加傾向にあり)
 - ・出版社が直接読者に本を販売するケース。個人や官庁、学校等、組織向けなどあり
- ③ インターネット(19.4%)
インターネット上の書店を経由したルート。(紙媒体のみ)
- ④ CVS(コンビニエンス・ストア)ルート(8.1%)
コンビニへ雑誌や一部書籍など
- ⑤ その他取次(生協ルートなど)(2.6%)
書店の代わりに生協が位置している。生協は再販制度適用除外対象となっている。

電子書籍

電子出版の市場規模 4,662億円

(億円)

年		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
紙	書籍	7,544	7,419	7,370	7,152	6,991	6,723	6,661	6,804
	雑誌	8,520	7,801	7,339	6,548	5,930	5,637	5,576	5,276
	紙合計	16,064	15,220	14,709	13,700	12,921	12,360	12,237	12,080
電子	電子コミック	887	1,169	1,491	1,747	2,002	2,593	3,420	4,114
	電子書籍	192	228	258	290	321	349	401	449
	電子雑誌	65	105	160	178	156	130	110	99
	電子合計	1,144	1,502	1,909	2,215	2,479	3,072	3,931	4,662

(『出版指標年報2022』より)

図書館における電子書籍(電子図書館)の導入

2007年 日本初 非来館型電子書籍貸し出しサービス
(千代田区立図書館)



新型コロナ
ウイルス感染症
対応地方創生臨
時交付金 1次
1兆計上

2020年7月 電子書籍導入 100自治体突破

2021年4月 電子書籍導入 200自治体突破

交付金2次
2兆
「図書館パワー
アップ事業」の
事例集

電子書籍(電子図書館)導入の課題

- ・市民が希望しているような書籍が、電子書籍化していない
- ・利用する権利であって購入できない
- ・プラットフォームで契約するので、書籍を買うようにコンテンツのみだけでの、いいとこ取りで選べない
- ・臨時交付金で導入した館は、今後も導入し続け、コンテンツ数を増やしていけるのか

資料選択(選書)

不特定多数の利用者を想定し、一定の蔵書構成を実現するために収集すべき個別の資料を選択すること。選書ともいう。または、蔵書の中から特定の利用者のために適書を選択すること。すなわち、現蔵書の充実度、利用頻度、利用者ニーズを考慮して、個々の資料を図書館に受け入れるかどうかを決定する作業やその過程を指す。

(『図書館情報学用語辞典』第5版)

さまざまな選書

- ① 購入(収集)するための選書
- ② 展示をするための選書
- ③ 除架(や除籍)するための選書

資料選択(選書)

資料選択は、**収集方針**や年度ごとの**重点計画**に基づいて行われ、**選択基準**に従って、個々の資料タイプが図書館の目的に適合するか、資料の有用性と費用対効果はどうか、利用者要求やニーズを充足させるか、資料収集の緊急性と優先順位は適正であるかどうかなどを判断して行われる。

(『図書館情報学用語辞典』第5版)

必要とされる図書館であるために

図書館を念頭に置いたうえでの選書で、図書館は生き残れるか？

自治体の課題(裏テーマ)を意識して事業を考える

→ 行政に、図書館の重要性を理解してもらえることは大事
予算獲得、予算執行の方法、人材確保などに影響することも。

「収集方針」や「選定基準」はありますか？

収集方針

資料収集にあたっての、基本方針。
どのようなコレクションを構築していくかを示し、それにより目指すべき図書館サービスを達成させる。

収集方針は、共有されていますか？

個人の好みや思い付き、担当が変わったときにわからなくなるなどありませんか？

「図書館学の五法則」(ランガナタン)

第一法則 本は利用するためのものである

第二法則 いずれの読者にもすべて、その人の本を

第三法則 いずれの本にもすべて、その読者を

第四法則 図書館利用者の時間を節約せよ

第五法則 図書館は成長する有機体である

図書館の自由に関する宣言

1 資料収集の自由

人々の「知る自由」「知る権利」を保障している宣言

「こういう資料は収集しない」ではなく
「多様な資料を可能な限り幅広く収集」という姿勢
外部からの圧力を恐れて自己規制されるべきではない

「不確かな情報」が掲載されている資料を
隠ぺいするのではなく、こうした資料に対する
「反対意見が掲載されている資料」を収集・
提供することで図書館の役割を果たす。

読者側が自分自身で判断できるようにする

「選定基準」

予算上の制約や施設の状況により、優先順位や制約があるときの拠りどころとして必要。

収集方針：総論
選定基準：各論

選定基準

- ・ガチガチに基準を設ける不自由
抽象的にならざるを得ない
- ・特定資料の採択の当否が、機械的に明らかになるようなものではない
(資料費予算や装丁に対し、著しく高価である、などは別)

見るポイント(どこを見て選ぶ?)

テーマ:同じテーマでもレベルや切り口が違う

構成:タイトルと内容が一致するか

著者:どんな著者か、専門分野は?

出版社:どんな分野が得意?

装丁:壊れやすさ

類書:すでに類書がどれくらいあるか

価格:価格と内容が適切か

発行:情報は新しいか、古くても必要な情報か

最近、シリアルナンバー等がついている本も。

実際の棚も
この目で見
よう!

蔵書構成を考える

密度・速度・深度 (『市場化の時代を生き抜く図書館』三村敦美より)

密度…利用や要求の大きさ

速度…資料の「賞味期限」

深度…資料レベル(入門書～専門書)

豊かな蔵書構成が、図書館をつくっていく

自館の棚はよく見えていますか?

「感覚」だけでは、分からないデータ

利用者の変化と社会の変化をどう捉えるか

(各館のシステムや地域によって違う)

分野別の回転率の調査をすることによって、社会の変化に伴う、
利用者の変化に気づくこともある。

書籍新刊割合(2021年)

	分野	割合(%)
0類	総記・百科事典	1.1
1類	哲学・心理・宗教	4.9
2類	歴史・地理	5.7
3類	社会科学	20.5
4類	自然科学	7.3
5類	工学・工業	5.3
6類	産業	3.3
7類	芸術	17.8
8類	語学	1.9
9類	文学	17.5
	児童書	6.4
	学習参考書	8.3
		100

(『出版指標年報2022』より)

各自治体の選書方法

- ① 現物見計らい
- ② リスト選書
- ③ 個別注文(リクエスト)
- ④ 出版社等のブックキャラバン

選定の考え方

価値論

「価値のある良書を図書館側が主体となって選定するのは当然で、多くの利用者に求められる、一時的な流行のベストセラーを蔵書に加えるのは慎重にするべき」という考え方

選定の考え方

要求論(予約・リクエスト)

「利用者の要求に積極的に応えるべき」という考え方。
『市民の図書館』日本図書館協会(1970)

貸出中心の図書館

予約の多くついた本の「複本購入」

出版界からの批判

- 貸出増加は出版不況の一因であり作家の利益を侵害している(日本文藝家協会や日本ペンクラブ)
- 『文藝春秋』(2000年12月号)林望氏「図書館は『無料貸本屋』か」の掲載
- 全国図書館大会(2015)で新潮社の社長から「一部の新刊本について一年間の貸出し猶予を求める」お願い
- 全国図書館大会(2017)で文藝春秋の社長が「図書館での文庫本の貸出しをやめてほしい」と表明。

出版点数と販売額/図書館数と貸出冊数

(『出版指標年報2022』より)

(『日本の図書館 統計と名簿
2021』より)

年	新刊点数(点)	推定販売金額(億円)		年	図書館数	貸出冊数 (千点)
		図書	雑誌			
2002	73,909	9,490	13,616	2002	2,711	546,287
2012	78,349	8,013	9,385	2012	3,234	714,971
2013	77,910	7,851	8,972	2013	3,248	711,494
2014	76,465	7,544	8,520	2014	3,246	695,277
2015	76,445	7,419	7,801	2015	3,261	690,480
2016	75,039	7,370	7,339	2016	3,280	703,517
2017	73,057	7,152	6,548	2017	3,292	691,471
2018	71,661	6,991	5,930	2018	3,296	685,166
2019	71,903	6,723	5,637	2019	3,306	684,215
2020	68,608	6,661	5,576	2020	3,310	653,449
2021	69,052	6,804	5,276	2021	3,316	545,343

書店の減少

(「書店マスタ管理センター」より)

	総店舗数	坪あり店舗数
2012	16,371	12,113
2013	15,602	11,713
2014	14,658	11,147
2015	14,468	10,809
2016	14,098	10,488
2017	13,576	10,116
2018	13,085	9,686
2019	12,653	9,285
2020	12,343	9,082
2021	11,952	8,806

ネット経由/リアル書店経由購買額比較

(『出版物販売額の実態2022』より)

年度	ネット経由			リアル書店経由			合計	
	購買額 (億円)	前年比 (%)	構成比 (%)	購買額 (億円)	前年比 (%)	構成比 (%)	購買額 (億円)	前年比 (%)
2019	5,743	112.0	35.7	10,332	90.4	64.3	16,075	97.1
2020	7,380	128.5	42.0	10,175	98.5	58.0	17,555	109.2
2021	8,503	115.2	46.2	9,888	97.2	53.8	18,391	104.8

図書館が新刊本を提供しなくなると本は売れるか？

- ① 売れる(少なくとも今よりは)
- ② 変わらない
- ③ 売れない
- ④ わからない

図書館市場

(『出版物販売額の実態2022』より)

年度	合計	合計	小学校 (億円)	中学校 (億円)	高等学 校(億 円)	大学短 大高専 (億円)	公共図 書館 (億円)
	図書購 入額 (億円)	前年比 (%)					
2019	736.6	97.4	97.2	59.5	39.1	289.7	251.0
2020	713.2	96.8	91.9	58.0	39.5	275.7	248.1
2021	688.5	96.5	90.9	60.3	34.8	255.8	246.7

なぜそう思うのかを職場内で話し合い、考え方を共有することが大事。

また、収集方針や選定基準は、一定期間ごとの見直しも必要。

出版不況に対し、図書館でできることはなにか？と**問い続ける**ことを忘れてはいけない。

「そんなに早く読みたければ買ってください」

「予約した資料の順番が回ってこない」という苦情。

図書館員は「自分で買ってください」とは言えない？

買いたい本の注文を手助けしてくれる図書館



こんにちは本屋さん

身近な市内の本屋さんで本を購入しませんか。図書館で見つけたお気に入りの本や、気になった本を専用FAXで気軽に注文できます。「こんにちは本屋さん」は市民のみさんたちの本屋さんをつなぐ取り組みです。

※注文内容等についてのお問合せは、直接書店へお願いします。
注文用紙は購入が完了するまで、保管をお願いします。 真庭市立中央図書館

【注文の流れ】

- ① 注文用紙に記入する
- ② FAXで送信する
- ③ 本の用意ができた受取希望店に連絡がきます
- ④ 受取希望店に行き、本を購入する

こんにちは本屋さん（「真庭市立中央図書館Facebook」より）

購入について

「地元書店から購入しています」は、本当？
地元書店のほかに、もう1社関わっての発注

フィルムコートをかけた上で、定価など

購入するために、合い見積もりをとらなければならない(公)
=割り引いてくれるところから買う

説明し続けて、適正な支払いをする努力をしないといけないのでは

除架(除籍)・・・入れるよりも難しい

船橋西図書館蔵書破棄事件(2001)などの教訓
過去の歴史を振り返り、自館だったらどうするかを考え、
職員が共通認識を持つことが重要。

図書館員の恣意的な除籍になっていないか？
利用者が納得する説明ができるか？

除架から除籍へ

- ・保存年限を決める、複数人で判断する
- ・内容が古い/利用がない/汚破損していて利用に支障がある

汚破損は修理をするか、買い替えるかも検討。

閉架を有効活用(ただし固定せず)

→ 狭隘化による、即除籍は間違った判断になることも

除架をすることで、棚が生き返り、より活用されやすくなる

学校図書館関連の最近の話題

「蔵書11万冊廃棄、代わりに購入したのは…学校現場から不満の声 広島県立学校図書館リニューアル」

「広島県教委は21日に公表した内部調査結果で、県立学校の図書館リニューアル事業の指導を依頼している児童文学評論家の赤木かん子氏(東京)との取引に「違法性はない」と結論付けた。ただ、赤木氏が関わった15校で、改装に伴い11万冊余りの蔵書を廃棄。学校現場からは、代わりに小学生向けの赤木氏の著書を購入させられたなどといった不満の声が出ている。」(中国新聞デジタル2023/2/23)

展示という選書

展示もひとつの選書

- ・どういう目的があって選ぶか
「展示」をやることが目的になっていないか？
- ・フェイスアウトの効果
- ・書架ではなかなか結びつかない本を関連づける
(ブックディレクター幅允孝さん)

展示という選書

- ・やりっぱなしにしない
- ・仮説でわかることもある
借りられないのではなく、ないから
(気づかないから)借りられない

参考資料

- 『出版指標年報2022』全国出版協会・出版科学研究所(2022)
『出版営業入門』日本書籍出版協会(2022)
『出版社の日常用語集』日本書籍出版協会(2015)
『電子図書館・電子書籍サービス調査報告書2022』植村八潮ほか/編著 樹村房(2022)
『図書館情報資源概論』宮沢厚雄/著 理想社(2018)
『図書館情報資源概論』岸田和明/編著 樹村房(2020)
『日本の図書館 統計と名簿 2021』日本図書館協会(2022)
『〈本の世界〉の見せ方』明定義人/著 日本図書館協会(2017)
『図書館情報学用語辞典』日本図書館情報学会用語辞典編集委員会 丸善出版(2020)
『市場化の時代を生き抜く図書館』三村敦美/著 時事通信出版局(2007)
『塩尻市における書店連携の実際と課題』青山志織/著 「図書館評論63」 図書館問題研究会(2022)
『出版物販売額の実態 2022』日本出版販売株式会社(2022)

ウェブサイト

- 「書店マスタ管理センター 店舗数推移」(最終確認2023. 3. 5)
https://www.jpoksmaster.jp/Info/documents/top_transition.pdf
「蔵書11万冊廃棄、代わりに購入したのは…学校現場から不満の声 広島県立学校図書館リニューアル」
中国新聞デジタル (最終確認2023. 3. 5)
<https://www.chugoku-np.co.jp/articles/-/273916>
「2020年経済構造実態調査(乙調査)」経済産業省(最終確認2023. 3. 5)
https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/kki/otsu/result1_2020.html
「こんにちは本屋さんをはじめました」真庭市立図書館Facebook (最終確認2023. 3. 5)
<https://onl.sc/F3t5cam>



ご清聴、ありがとうございました